

事後評価報告書  
(日本-EU 研究交流)

1. 研究課題名： 天候および海洋と水についての全球地球観測システムを利用した相互流通性

2. 研究代表者名：

日本側： 東京大学大学院工学系研究科 地球観測データ統合連携研究機構 教授 小池 俊雄  
相手側： European Space Agency (ESA), Ground Segment Department,  
Data Access project manager Johannes Gijsbertus van Bemmelen

3. 総合評価： A

4. 事後評価結果

(1) 研究成果の評価について

EU との協力により、本研究において開発した相互流通性支援システムが、GEOWOW や GEOSS インフラ構築作業を媒介として広く利用されるようになったことは評価できる。また、研究成果の適用としてアフリカの河川における洪水予測情報構築という具体例を提示したことも評価できる。

今後、研究成果を共著論文もしくは連名での学会発表といった形で公表するなど、関連の研究者コミュニティに向けた研究成果の情報発信が期待される。

(2) 交流成果の評価について

本課題により、既存の日本及び EU におけるデータ統合枠組みの連携が実現し、これをさらに発展させることができたことは高く評価できる。EU 側の強いアンサンブル気象予測と日本側の強い水循環モデリング、それに世界河川データセンター (GRDC) のデータを活用することで、連携が効果的に行われていることが認められる。

インターネットを介した研究が中心ではあるが、幅広い交流の促進という観点では相手側研究チームからより多くの来訪が実現するとなお良かった。

(3) その他

課題終了後も国際協同研究が推進されることを期待したい。